普及活動情勢報告（平成 24 年６月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

安心・安全なオクラの産地をめざして－中芸オクラ部会現地検討会より－

圃場を巡回しながら栽培管理の勉強

5 月 21 日～6 月 8 日にＪＡ土佐あき園芸研究会オクラ部会は、北川、奈半利、中山、東島の各支部で勉強会と現地検討会を開催し、のべ 61 人の農家が参加した。振興センターとＪＡは、これからの栽培管理と病虫害対策について情報提供し、部会長と共に「農薬管理の徹底」を強調して呼びかけた。同オクラ部会は平成 23 年に設立されたばかりで、前回の活動ではまだ低迷している支部もあったが、今回は各支部で参加者が増加し有意義な活動ができた。

今後も振興センターは、より安心・安全なオクラ産地の確立をめざして、栽培管理や適正な薬剤使用についての情報提供をしながら、部会活動がより活性化するよう支援を行う。

ＪＡ土佐あき柚子部中山支部の勉強会が始まる

勉強会の様子

JA 土佐あき柚子部中山支部は 5 月 25 日に生産者 10 人が参加して、5、6 月の病害虫対策について勉強会を開催し、振興センターは黒点病、幹腐病、カミキリムシ等の防除方法について、有機栽培に対応した対策を指導した。同支部のユズは、全量加工仕向けとして搾汁され、果汁をＪＡ馬路村に販売しているが、近年、果皮需要が多く、外観の良い加工玉を有利に販売して収入アップにつなげるため、24 年度から勉強会を毎月開催することとなったものである。

参加者からは「幹腐病や黒点病の効果的な防除方法は？」、「病害虫の被害に弱い幼木の管理が難しく、改植がうまくいかない」という意見も出た。

同支部は有機栽培に準じているため病害虫防除に苦労しており、振興センターとしては、耕種的防除の徹底と適期薬剤防除の組合せにより皮出荷拡大につながるよう支援していく。

これから行う、次作に向けたナス病害対策！　安芸集出荷場ナス部会の開催

病害対策を確認

5 月 30 日、JA 土佐あき安芸集出荷場でナス部会が開催され、生産者 32 名が参加し、この時期におけるナス果実の目慣らしや栽培管理について話し合うとともに現地検討会（‘土佐鷹’ほ場 1 カ所）を行った。

振興センターは、H24 園芸年度における主要病害の発生消長やナスの新病害であるナスフザリウム立枯病(仮称)の紹介、次作に向けたこれら病害の対策（土壌消毒やハウス資材の消毒法、有効薬剤等）について紹介した。生産者からは新病害の特性や現状での被害状況など活発な質問が出された。

振興センターでは、各集出荷場単位はもちろん、6 月 22 日にはナスフザリウム立枯病の発生が多かった安芸集出荷場管内の個人集荷者も含めた対策講習会を実施するなど、今後も病害対策の啓発に取り組み、生産者への技術支援を行う。

品種の統一で一致団結－奈半利スイカ研究会より－

品種の説明を聞いて検討中

6 月 4 日、奈半利支所スイカ研究会の現地検討会と勉強会が開催され、全戸 10 人の農家が参加した。

振興センターはスイカ果実汚斑細菌病を中心に、病害虫防除と農薬管理表の作成について指導し、種苗会社は抑制作（10～12 月出荷）向けの優良品種の説明を行った。今回、同研究会では抑制作の品種統一に向けて優良品種の導入に取り組むことで合意した。

また、農家から「他のスイカ産地へ視察に行きたい」という積極的な意見も出て、自主的な活動への意欲が見られた。

今後も振興センターは、研究会としてのまとまりが強まるよう、定期的に開催する勉強会等により活動を支援していく。

東洋地域での水稲後作ブロッコリーを推進～JA 土佐あき稲作部野根支部役員会～

役員会で議論中

6 月 6 日、JA 土佐あき東洋支所野根事業所で JA 土佐あき稲作部野根支部の役員会が開催され、部会役員、JA、振興センターなど 12 名が参加した。

振興センターから、平成 23 年度における水稲後作ブロッコリーの推進活動報告および平成 24 年度の推進活動計画を提案した。

平成 24 年度は、部会組織への重点的な導入を継続し、さらに広く声かけを行うため、栽培推奨のビラを作成していく。

部会役員や JA からは、「部会としても声かけはしていきたい」といった好意的な意見がある一方、「稲にシカ被害が見られ始めた。獣害対策もしなければ…」という声も聞かれた。

振興センターでは、今後も JA と協力し、推進ビラの配布・個別の声かけなどにより水田跡作ブロッコリー生産の拡大を図る。

大原・西ノ平生産組合の総会開催「こうち型集落営農」

ビジョンを再確認

6 月 9 日、9 名が参加し、大原・西ノ平生産組合の総会が行われた。平成 23 年度の決算、活動総括と 24 年度の活動計画を確認した。

振興センターからは平成 23 年度のゴマ栽培結果の報告と、平成 24 年度のブロッコリー協業栽培の方針について提案した。また、集落営農ビジョンを参加者全員で再確認した。

今後も振興センターは、大原・西ノ平の集落営農ビジョン達成をめざし、協業栽培や部会活動を支援していく。

野根小学校で小夏の出前授業を開催！！

ジュニア博士認定証授与の様子

6 月 9 日、野根小学校 1～3 年生 15 名を対象に小夏の出前授業を実施した。

授業では、振興センターが講師を務め、はじめに高知の特産果樹について説明した後、小夏の正式な名前が「日向夏」であること、ナイフで皮を剥いて食べるとおいしいことなど、小夏の特徴を学習した。また、生産者からの教材提供により、果実の袋がけの実習や、ナイフで皮をむいた小夏と、手でむいた小夏の食べ比べなどを行った。児童からは「ナイフでむいた方がおいしい」、「袋がけが楽しかった」といった声が聞かれた。

振興センターでは、今後も関係機関や地元の生産者と協力して、地元の農産物について児童に楽しく学んでもらえるよう出前授業を行っていく。

北川村くぶつけ集落営農組合水稲部の勉強会が始まる

現地検討会の様子

6 月 14 日、6 名が参加し、くぶつけ集落営農組合水稲部の現地検討会を開催した。

請負田の収量アップや各農家の栽培への不安解消のため自発的に振興センターに勉強会開催の協力要請があり、6 月から勉強会や現地検討会を開催することにしたもので、振興センターは、各農家の定植、施肥状況を聞き取り、葉色調査等の結果から今後の管理について指導した。

生産者からは、肥料の選び方、除草剤の使用方法、水管理等の質問があった。次回からは近隣地区も勧誘して取り組みを広げていく予定である。